

## 公的資金補償金免除繰上償還に係る公営企業経営健全化計画

### 基本的事項

#### 1 事業の概要

特別会計名：

巨理町上水道事業会計

事業名	末端給水事業		
事業開始年月日	S41.4.15	地方公営企業法の適用・非適用	適用 非適用
団体名	巨理町	職員数 (H19.4.1現在)	9
構成団体名			

注1 事業を実施する団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）の場合は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記載し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記すること。

2 「職員数」欄には、当該事業に従事する全職員数を記載すること。

#### 2 財政指標等

資本費	171円 (H18)	公営企業債現在高 (百万円)	2,720 (H18)
累積欠損金 (百万円)	0 (H18)	利益剰余金又は積立金 (百万円)	304 (H18)
不良債務 (百万円)	0 (H18)	財政力指数	0.580 (H18)
資金不足比率 (%)	0 (H18)	実質公債費比率 (%)	14.6 (H19)
		経常収支比率 (%)	89.5 (H18)

注 平成17年度（又は平成18年度）の公営企業決算状況調査、地方財政状況調査等の報告数値を記入すること。

なお、財政力指数、実質公債費比率及び経常収支比率は、当該事業の経営主体である地方公共団体の数値を記載し、当該事業が一部事務組合等により経営されている場合は、その構成団体の各数値を加重平均したものを記載すること。（ただし、旧資金運用部資金及び旧簡易生命保険資金について対象としない財政力1.0以上の団体の区分については構成団体の中で最も低い財政力指数を記載すること。）

#### 3 合併市町村等における公営企業の統合等の内容

新法による合併市町村、合併予定市町村における公営企業の統合等の内容 旧法による合併市町村における公営企業の統合等の内容 該当なし

注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（平成16年法律第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。

2 「旧法による合併市町村」とは、市町村の合併の特例に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第2項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。

3 にしを付けた上で内容を記載すること。

#### 4 公営企業経営健全化計画の基本方針等

区分	内容
計画名	地方債繰上償還に係る財政健全化計画
計画期間	平成19年度～23年度
計画策定責任者	巨理町長 齋藤邦男
既存計画との関係	集中改革プラン(H18～H22)・第4次総合発展計画(H18～H27) 巨理町水道第4次拡張事業(H11～H22)
公表の方法等	広報誌・ホームページ等及び議会については承認後報告
基本方針	安全で安心な水を安定的に供給するため、効率的な施設設備の維持補修及び更新を図りながら、独立採算の原則を維持しつつ、健全な経営を目指す。また、議会の理解を得ながら、住民(利用者)の負担増となる使用料の値上げ幅を極力小さくすべく努力する。

注 計画期間については、原則として平成19年度から23年度までの5か年とすること。

基本的事項（つづき）

5 繰上償還希望額等

(単位：百万円)

区 分		年利5%以上6%未満	年利6%以上7%未満	年利7%以上	合 計
旧資金運用部資金	繰上償還希望額	214.0	74.1	73.1	361.2
	補償金免除額	27.9	15.4	13.3	56.6
旧簡易生命保険資金	繰上償還希望額				
公営企業金融公庫資金	繰上償還希望額	31.9			31.9

注 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所に予め相談・調整の上、確認した補償金免除(見込)額を記入すること。

6 平成19年度末における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度末残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債	上水道	213,978	74,106	73,065	361,149
合 計 (A)		213,978	74,106	73,065	361,149
一 般 上 記 の う ち (再掲) 再掲)					
合 計 (B)		0	0	0	0
公営企業で負担するもの (A)-(B)		213,978	74,106	73,065	361,149

【旧簡易生命保険資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成21年度末残高)	年利7%以上 (平成20年度9月期残高)	合 計
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
一 般 上 記 の う ち (再掲) 再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

【公営企業金融公庫資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成20年度9月期残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度9月期残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債	上水道	30,512			30,512
合 計 (A)		30,512	0	0	30,512
一 般 上 記 の う ち (再掲) 再掲)					
合 計 (B)		0	0	0	0
公営企業で負担するもの (A)-(B)		30,512	0	0	30,512

注1 地方債計画の区分ごとに記入すること。  
2 必要に応じて行を追加して記入すること。

財務状況の分析

区 分	内 容	
財務上の特徴	<p>単年度収支は黒字であり、累積欠損金もなく、比較的堅調な経営状況にある。しかし、給水原価が供給単価を上回っており、今後経営状況の悪化が懸念される。</p>	
経営課題	課題	料金の適正化
	<p>早期の料金改定が必要であるが、供給単価が全国平均水準（162円）を大幅に上回っており、単年度収支が黒字の段階での値上げは住民の理解が得られにくい。</p>	
	課題	資本投下の抑制
	<p>平成22年度完了目標の第4次拡張事業として、配水池の新設等を計画しているが、ここ数年水需要が伸び悩んでおり今後も大幅な伸びは期待できないことから、計画の繰延等を検討している。</p>	
	課題	
留意事項	課題	
	課題	
	課題	

注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記載すること。また、経営指標等について経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。

2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、維持管理費等サービス供給コストの節減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、団体が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記載する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を記載すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。





## (3) 経営指標等

(単位:%)

		平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	
資金不足比率	(%) (再掲)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
料金回収率	(%)	97.5	97.5	97.5	101.3	98.7	98.1	98.0	98.6	99.1	102.0	
総収支比率(法適用)	(%)	100.9	99.6	104.0	107.6	105.4	103.8	104.1	104.7	105.2	109.3	
経常収支比率(法適用)	(%)	100.9	99.6	104.0	108.2	105.7	104.3	104.4	105.0	105.5	109.6	
営業収支比率(法適用)	(%)	119.1	117.1	115.1	119.9	115.3	114.0	113.8	113.7	113.7	117.1	
累積欠損金比率(法適用)	(%) (再掲)	36.5	36.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
収益的収支比率(法非適用)	(%) (再掲)											
不良債務比率(法適用)又は 赤字比率(法非適用)	(%) (再掲)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
繰入金比率	収益的収入分	(%)	1.9	2.0	1.8	1.8	1.8	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3
	うち基準内繰入金	(%)	1.9	2.0	1.8	1.8	1.8	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3
	うち基準外繰入金	(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	うち料金収入に計上すべき繰入等	(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	うち赤字補てん的なもの	(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	資本的収入分	(%)	8.5	5.6	11.0	17.5	8.3	18.5	15.7	15.7	16.7	16.7
	うち基準内繰入金	(%)	8.5	5.6	11.0	17.5	8.3	18.5	15.7	15.7	16.7	16.7
	うち基準外繰入金	(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
うち赤字補てん的なもの	(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

## (1) 資金不足比率(%)

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = 地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = 地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

## (2) 総収支比率(%) = 総収益 / 総費用 × 100

## (3) 経常収支比率(%) = 経常収益 / 経常費用 × 100

## (4) 営業収支比率(%) = (営業収益 - 受託工事収益) / (営業費用 - 受託工事費用) × 100

## (5) 累積欠損金比率(%) = 累積欠損金 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

## (6) 収益的収支比率(%) = 総収益 / (総費用 + 地方債償還金) × 100

## (7) 不良債務比率(又は赤字比率)(%) = 不良債務(又は実質赤字額) / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

## (8) 繰入金比率(%) = 収益的収入に属する他会計繰入金(又は資本的収入に属する他会計繰入金) / 収益的収入(又は資本的収入) × 100

## 2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業にあつては使用料回収率)について記載すること。

## (1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法

・料金回収率(%) = 供給単価 1 / 給水原価 2 × 100

1 供給単価(円/m<sup>3</sup>) = 給水収益 / 年間総有収水量(工業用水道事業にあつては料金算定に係るもの)2 給水原価(円/m<sup>3</sup>) = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金(水道事業のみ))) / 年間総有収水量(工業用水道事業にあつては料金算定に係るもの)

但し、簡易水道事業については下記によるものとする。

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金 + 減価償却費) + 企業債償還金) / 年間総有収水量

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = (総費用 - (受託工事費 + 基準内繰入金) + 地方債償還金) / 年間総有収水量

## (2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法

・使用料回収率(%) = 使用料収入 / 汚水処理費 × 100

(4) 収支見通し策定の前提条件

条件項目	収支見通し策定に当たっての考え方(前提条件)
1 料金設定の考え方、料金収入の見込み	料金改定については、単年度収支が黒字で累積欠損金もないことから、平成23年度の受水費改正まで住民の理解を得るのが難しく、また、給水人口の大幅な増加は期待できないため、料金収入については、微増のまま推移する。
2 他会計繰入金の見込み	基準外繰入は、受けておらず今後も要求しない。ただし、基準内繰入については、今後とも財政部局に請求する。
3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み	平成22年度完了予定の第4次拡張事業において配水池の新設を計画しておりますが、当初想定した程の水需要の増加は期待出来ないため、事業の見直し又は期間の延期を検討する。また、すぐに売却できるような遊休資産は見当たらず、資産売却等による収入増は期待できない。
4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの	18年度の機構改革により職員が2名減っているが、今後も現在の職員数で運営していく。また、給与総額については、定期昇給による増のみで、人事院勧告による給与改定は想定していない。

注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定(前提条件)について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

## 経営健全化に関する施策

項 目	具 体 的 内 容												
1 行革推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減 <table border="1" data-bbox="145 300 611 1093"> <tr> <td data-bbox="145 300 611 427">地方公務員の職員数の純減の状況</td> <td data-bbox="611 300 2136 427">平成18年10月に本町の機構改革があり、水道事業所と下水道課が合併し、それに伴って水道事業職員数が、11人から9人に削減された。今後も現在の職員数を維持し運営していく。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 427 611 534">給与のあり方</td> <td data-bbox="611 427 2136 534"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 534 611 673">国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方</td> <td data-bbox="611 534 2136 673">平成18年4月から、国制度に準拠し、新給料表(8級制から6級制)への切替、最高号俸者の昇給停止、55歳以上の昇給抑制等を行っている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 673 611 813">技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方</td> <td data-bbox="611 673 2136 813">現在技能労務職員はおらず、今後も必要とはしない。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 813 611 954">退職時特昇等退職手当のあり方</td> <td data-bbox="611 813 2136 954">退職時特別昇給は、平成17年8月1日から廃止している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 954 611 1093">福利厚生事業のあり方</td> <td data-bbox="611 954 2136 1093">平成19年度から互助会への補助金について、包括的に行っていたものを各事業毎への補助方式に変更し、補助金額全体で10%削減した。さらに公費負担の適正化に向け見直しを図っていく。</td> </tr> </table>	地方公務員の職員数の純減の状況	平成18年10月に本町の機構改革があり、水道事業所と下水道課が合併し、それに伴って水道事業職員数が、11人から9人に削減された。今後も現在の職員数を維持し運営していく。	給与のあり方		国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方	平成18年4月から、国制度に準拠し、新給料表(8級制から6級制)への切替、最高号俸者の昇給停止、55歳以上の昇給抑制等を行っている。	技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方	現在技能労務職員はおらず、今後も必要とはしない。	退職時特昇等退職手当のあり方	退職時特別昇給は、平成17年8月1日から廃止している。	福利厚生事業のあり方	平成19年度から互助会への補助金について、包括的に行っていたものを各事業毎への補助方式に変更し、補助金額全体で10%削減した。さらに公費負担の適正化に向け見直しを図っていく。	
地方公務員の職員数の純減の状況	平成18年10月に本町の機構改革があり、水道事業所と下水道課が合併し、それに伴って水道事業職員数が、11人から9人に削減された。今後も現在の職員数を維持し運営していく。												
給与のあり方													
国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方	平成18年4月から、国制度に準拠し、新給料表(8級制から6級制)への切替、最高号俸者の昇給停止、55歳以上の昇給抑制等を行っている。												
技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方	現在技能労務職員はおらず、今後も必要とはしない。												
退職時特昇等退職手当のあり方	退職時特別昇給は、平成17年8月1日から廃止している。												
福利厚生事業のあり方	平成19年度から互助会への補助金について、包括的に行っていたものを各事業毎への補助方式に変更し、補助金額全体で10%削減した。さらに公費負担の適正化に向け見直しを図っていく。												
2 物件費の削減、指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用等 <table border="1" data-bbox="145 1200 611 1476"> <tr> <td data-bbox="145 1200 611 1340">維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組</td> <td data-bbox="611 1200 2136 1340"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 1340 611 1476">指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用</td> <td data-bbox="611 1340 2136 1476">浄水場の運転管理及びメータ検針については、以前より民間業者に委託しており、また、職員が行っていた毎日の管末採水業務を平成18年度から委託している。(0.5人分4百万円-委託料2百万円=改善額 2百万円) 今後、開閉栓業務の民間委託を検討している。</td> </tr> </table>	維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組		指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用	浄水場の運転管理及びメータ検針については、以前より民間業者に委託しており、また、職員が行っていた毎日の管末採水業務を平成18年度から委託している。(0.5人分4百万円-委託料2百万円=改善額 2百万円) 今後、開閉栓業務の民間委託を検討している。									
維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組													
指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用	浄水場の運転管理及びメータ検針については、以前より民間業者に委託しており、また、職員が行っていた毎日の管末採水業務を平成18年度から委託している。(0.5人分4百万円-委託料2百万円=改善額 2百万円) 今後、開閉栓業務の民間委託を検討している。												



## 経営健全化に関する施策（つづき）

項 目	具 体 的 内 容
3 コスト等に見合った適正な料金水準への引上げ、売却可能資産の処分等による歳入の確保  料金水準が著しく低い団体にあっては、コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げに向けた取組	課題 「料金の適正化」については、平成23年度に受水費の改定が予定されており、それに併せて平成23年8月頃から平均16%程度の料金値上げを予定している。(787百万×16%×8/12ヶ月=改善額 83百万円) また、ここ数年行っていなかった悪質な未納者に対する給水停止を19年度から行っており、特に過年度未集料金の減少を図る。(18年度決算16百万-19年度決算見込15百万円=改善額 1百万円)
4 経営健全化や財務状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入  経営健全化や財務状況に関する情報公開  行政評価の導入	広報誌及びホームページ等を利用し公開する。  平成18年度より町全体で行政評価制度を導入している。
5 その他	課題 「資本投下の抑制」については、平成22年度完了目標の第4次拡張事業として、配水池の新設等を計画しているが、ここ数年水需要が伸び悩んでおり今後も大幅な伸びは期待できないことから、計画の変更・繰延等を検討している。

注1 上記区分に応じ、「財務状況の分析」の「経営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策が明らかとなるよう、に付した課題番号を引用しつつ、記入すること。

2 上記に記入した各種施策のうち、当該取組の効果として改善額の算出が可能な項目については、「繰上償還に伴う経営改革効果」の「年度別目標等」にその改善額を記入すること。なお、当該改善額が対前年度との比較により算出できない項目（資産売却収入・工事コスト縮減など）については、当該改善額の算出方法も併せて上記各欄に記入すること。

3 必要に応じて行を追加して記入すること。

繰上償還に伴う経営改革促進効果

1 主な課題と取組み及び目標

課題	取組み及び目標
1 職員数の純減や人件費の総額の削減	平成18年度の機構改革により年度途中から職員が2名減っているが、今後も現在の職員数で運営していく。(18年度決算額 71百万円-19年度決算見込64百万円=改善額 7百万円)
2 経営効率化や料金適正化による繰越欠損金の解消等	平成23年度に受水費の改定が予定されており、それにあわせて平均16%程度の料金値上げを予定している。(787百万×16%×8/12ヶ月=改善額 83百万円) また、ここ数年行っていなかった悪質な未納者に対する給水停止を19年度から行っており、特に過年度未集料金の減少を図る。(18年度決算16百万-19年度決算見込15百万円=改善額 1百万円)
3 民間活用による維持管理費等の削減	職員が行っていた毎日の管末採水業務を平成18年度から民間に委託している。(職員0.5人分 4百万円-委託料 2百万円=改善額 2百万円) 今後、開閉栓業務の民間委託を検討している。
4 その他	平成22年度完了目標の第4次拡張事業として、配水池の新設等を計画しているが、ここ数年水需要が伸び悩んでおり今後も大幅な伸びは期待できないことから、計画の変更・繰延等を検討し、資本投下の抑制を図る。

注1 上記各項目には、で採り上げた経営課題に対応する取組としてに掲げた経営健全化に関する施策のうち、それぞれ各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

2 年度別目標等 次頁以下(1)から(5)までの各事業別様式を参考に、以下の考え方に沿って策定すること。

(各事業共通留意事項)

1. 次頁以下の各事業別様式は、「年度別目標」を策定するに当たって参考となるよう例示的な様式を示したものであり、2に掲げた項目以外は必ずしも全ての項目に記入を要するものではなく、各団体の各事業の状況にあわせて記入可能な項目のみ記入し又は独自の取組に応じた項目を立てて記入することは差し支えないものであること。
2. 各事業別様式は参考例示ではあるが、各様式中の「目標又は実績」欄の項目のうち、職員数、行政管理経費(人件費、物件費、維持補修費等)に該当する項目並びに累積欠損金比率及び企業債現在高は、年度別目標策定に際して必須項目とされているので漏れがないよう留意すること。なお、これらの項目のうち、職員数、行政管理経費については、各団体(事業)の取組状況に応じて、適宜、細分化(例:職員数 職種別に区分、正職員と臨時職員とを分離計上等)することは差し支えないこと。
3. 「目標又は実績」欄の項目中、「職員数」については、前年度との比較によりその増減数を各年度の「増減数」欄に計上するとともに、計画期間中の「増減数」の合計は「計画合計」欄に計上し、計画前5年間の「増減数」の合計は「計画前5年間実績」欄に計上すること。
4. 「目標又は実績」欄の項目の見直し施策実施に係る「改善額」は、原則として、当該見直し施策実施年度の前年度との比較により算出し、その改善効果がその後も継続するものとして、その後の各年度の改善額を計上すること。
5. 4による「改善額」が対前年度との比較により算出できない項目、その改善効果が単年度に限られる項目(資産売却益、工事コスト縮減等)については、当該改善額のみ当該見直し施策の実施年度の「改善額」欄に計上すること。またその場合の改善額の算出方法について、の当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。
6. 計画期間中に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画合計」欄に計上すること。また、計画前5年間に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画前5年間実績」欄に計上すること。
7. 「改善額 合計」欄及び「計画前5年間改善額 合計」欄には、それぞれの期間に係る人件費(退職手当以外の職員給与費)その他改善額を計上することが可能なものの合計(「計画合計」及び「計画前5年間実績」それぞれの合計)を記入すること。その際、同一項目に係る内訳に相当するもの等を重複計上することのないよう留意すること。
8. 「(参考) 補償金免除額」欄に記入する「補償金免除額」とは、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額(補償金免除(見込)額)であり、の「5 繰上償還希望額等」に記入した「旧資金運用部資金」の「繰上償還希望額」に対応する「補償金免除額」の「合計」欄の額を転記すること。
9. 以上の他、各事業別様式において、記入を求められている経営指標その他の項目等については各事業別様式の指示(留意事項)に従うこと。
10. 必要に応じて行を追加して記入すること。

線上償還に伴う経営改革促進効果（つづき）

2 年度別目標等

(1) 水道事業

年度別目標

(単位:百万円、%)

課題	目標又は実績	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	計画前5年間 実績	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	計画合計	
<b>【収入の確保】</b>														
2	料金改定率												16%	
	改善額(料金の適正化) 1												83	
2	未収金の徴収対策					16		15	15	15	14	14		
	改善額							1	1	1	2	2	7	
	一般会計負担金の額													
	改善額(負担金の確保等)													
	資産の有効活用													
	改善額(収入増額)													
	その他( )													
	改善額													
<b>【経費の削減】</b>														
1	職員給与費の適正化													
	職員給与費(退職手当以外)				74	71		64	65	66	67	69		
	改善額					3		7	6	5	4	2	24	
	給与水準													
	改善額													
	その他( )													
	改善額													
	職員給与費(退職手当)													
	改善額													
	職員数 (人)	10	10	10	11	9		9	9	9	9	9		
	増減数 (人)				1	-2		-1					0	
3	維持管理費等(管未採水業務)				4	2								
	改善額(適正化)					2		2						
	工事コスト 2													
	改善額(縮減額)													
	その他(建設改良費の抑制)													
	改善額													
	累積欠損金比率	36.5	36.6	0	0	0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	増減	-0.1	0.0	-36.6	-36.6	-36.6		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	企業債現在高	3,034	2,971	2,874	2,753	2,720		2,639	2,599	2,471	2,376	2,280		
	増減	-86	-149	-246	-367	-400		-81	-121	-249	-344	-440		
							計画前5年間改善額 合計	5				改善額 合計	114	
													(参考) 補償金免除額	57

注1 「課題」欄については、「1 主な課題と取組み及び目標」の「課題」欄の番号を記入すること。

注2 1 「改善額(料金の適正化)」については、「料金改定に伴う料金増収額」を記入すること。

2 「工事コスト」については、工法の見直し等による建設コストの縮減(建設改良費の抑制は除く。)を記入すること。

3 改善額の算出方法については、当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。また、会計規模により必要に応じて単位を百万円から千円に変更することも可とするが、「改善額合計」を算出する際の単位誤り、誤計上(重複計上等)がないよう留意すること。

経営状況

	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)
給水人口 (千人)	35,417	35,585	35,631	35,675	35,638	35,710	35,782	35,854	35,927	36,000
年間総有収水量 (千m <sup>3</sup> )	3,357	3,317	3,359	3,397	3,399	3,405	3,412	3,418	3,425	3,431
公称施設能力 (m <sup>3</sup> /日)	16,100	16,300	16,600	16,200	15,900	16,200	16,500	17,000	17,300	17,500
1日最大配水量 (m <sup>3</sup> /日)	12,957	13,065	12,092	12,307	12,408	12,526	12,645	12,763	12,882	13,000
最大稼働率 (%)	80.48	80.15	72.84	75.97	78.04	77.32	76.64	75.08	74.46	74.29
供給単価 (円/m <sup>3</sup> )	230.1	230.1	229.9	229.8	230.4	227.3	228.3	229.1	229.8	253.6
給水原価 (円/m <sup>3</sup> )	240.8	240.3	240.9	231.1	237.8	235.8	236.8	236.1	235.3	248.6

簡易水道事業の統合に係る基本方針

注 「統合計画の概要・実施スケジュール」又は少なくとも「検討体制・実施スケジュール、検討の方向性、結論をとりまとめる時期」を具体的に記載すること。